

HOT NEWS

都議会ネット

■2月18日(水)～3月27日(金)、都議会第1回定例会の開催。
■一般質問は小松久子。予算特別委員会委員は西崎光子。

地域ネット

町田ネット

講演会「福島汚染の現状と川内原発再稼働の問題点」
2月14日(土) 14:30～17:30
勝楽寺 誕生殿地下ホール(町田市原町田3-5-12)
講師:満田夏花さん(国際環境NGO「FoE JAPAN」理事)、井野博満さん(東京大学名誉教授/柏崎刈羽原発の閉鎖を訴える科学者・技術者の会代表)
参加費 500円 要予約 定員100名 先着順
共催:原発事故を考える町田市民の会/原子力市民委員会

大田ネット

きたざわ潤子スタート集会
2月21日(土) 14:00～16:00
アプリコ 展示室(蒲田駅東口)
ウ学級(うがじんあきひろとゆかいな仲間たち)による、楽しい童話劇を予定
参加費 700円、子ども無料

狛江ネット

Yamamoto ☆ Yoshino ワイワイスタート集会
2月21日(土) 14:00～16:00
泉の森会館3階ホール(狛江駅)
講演「市民から出発する社会」:福岡浩彦さん(元我孫子市長/中央学院大学教授)
参加費 500円

板橋ネット

憲法カフェ@常盤台 vol.2
2月23日(月) 14:30～17:30
Dining Room Tomobe (ときわ台駅10分)
テーマ「自民党政改憲案」:伊藤朝日太郎さん(明日の自由を守る若手弁護士会)
参加費 500円+1ドリンク(実費)

調布ネット

未来(あした)を語る市民の集い
3月6日(金) 19:00～20:30
調布市文化会館たづくり12階大会議場(調布駅)
さまざまなテーマで活動する市民グループが、まちの将来像を語る
参加費 500円

豊島ネット

村上のリ子とおしゃべりタイム
3月14日(土) 10:30～11:30
豊島・生活者ネットワーク事務所(要町駅)
地域のこと、区政のことなどおしゃべりませんか

生活者ネットワーク3つのルール

- 1 議員は交代制(ローテーション)**
生活者ネットワークの議員は、最長でも3期12年で交代します。議員を職業化・特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に**
生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。
- 3 選挙はカンパとボランティアで**
選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金(カンパ)と知恵や労力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

西東京市議会議員選挙 後藤優子・生活者ネットワーク 加藤涼子 二人当選!

昨年12月21日、西東京市議会議員選挙が執行され、西東京・生活者ネットワークの新人、後藤優子、加藤涼子の二人が共に上位当選を果たしました。



●清水浩子さん(西東京・生活者ネットワーク代表)のほなし
今回は新人二人を擁立、定数28に対し36人が立候補するという厳しい選挙戦でしたが、二人とも上位当選(3位/5位)を果たすことができました。支持者層を中心に、おおぜいの皆さんに直接話を聞く活動をしつかり行えたことが、私たち西東京ネットの30年間の地道な活動への評価につながったと同時に、まちづくり・地域づくりをともにしてきた運動グループとの連携強化に取り組んだことも大きな成果につながったと評価しています。

選挙運動を通じて、高齢などで投票にいけないとの声も多く聞きました。投票所にいけない人への対応の検討などを含め、40・77%という最低の投票率をどう回復させていけるかが大きな課題です。



かとう涼子 ●初めての市議選で、「思い切った挑戦には誰かの理解と支えが必要だ」としみじみ実感しました。おとなも子どもも何度でもチャレンジできる、互いに支え合える地域の実現に向けて、後藤さんと共に、全力で頑張ります!



後藤ゆう子 ●4月の統一地方選の前哨戦の役割のある、新人二人の厳しい選挙でした。西東京ネット30年の地道な活動とネットワーク運動の理念が、おおぜいの市民の皆さんに認められ、とても嬉しいです。これから大きな期待に全力で応えてまいります。

西東京市議会議員選挙
2014年12月21日投票

| | | |
|------|--------|---------|
| 後藤優子 | 2664票 | 3位 |
| 加藤涼子 | 2619票 | 5位 |
| 定数 | 28 | 立候補者 36 |
| 投票率 | 40.77% | |

COLUMN

第47回衆議院議員選挙を終えて

東京・生活者ネットワーク

東京・生活者ネットワークは、この選挙を「大義のない選挙のために631億円もの税金を投じ、重要な政策協議を中断した」と断じつつも安倍政権の大暴走をストップさせるチャンスととらえ、選挙に臨むことを方針としました。しかし民主党と維新の党の候補者調整などもあり、安倍政権に対抗する選択肢を示しきれず、全地域での取り組みには至りませんでした。

選挙結果は与党で3分の2の議席数を上回り、安倍政権の継続を迫るものと報道されました。しかし、投票率は52・66%と戦後最低を更新し、2年前よりも6・66ポイントも低く、この選挙結果をもって国民の信を得たものとは言えません。低投票率が示す国民の政治離れという現実をこそ、自公政権は重く受け止め、慎重な政権運営を図るべきです。生活者ネットワークとしても投票率を上げる活動が課題です。

得票数と議席数の乖離が指摘されている小選挙区制の下で、自民党は290議席を獲得しました。今回の選挙が全国1区完全比例代表制で戦われたと仮定すると、各党の議席数は、自民158、民主87、維新75、公明65、共産54、社民12、次世代12、生活9、幸福2、無所属1となると分析されています。民意を大きくゆがめる選挙制度の見直しを求めていか

なければなりません。

今後、安倍首相は集団的自衛権行使を可能とするための関連法案の提出、日米新ガイドラインの改定、九州電力川内原発をはじめとする原発再稼働、さらに改憲に向けて動きを活発化させていくことは明白です。政治のあるべき姿は、右傾化する国政に国民の大多数が強い危機感を覚えている実態や、貧困や格差社会を容認する政治から脱却し、生活者の確保をこそ求める国民の意思を真摯に受け止めることにあります。

安倍首相は、「経済最優先」の道しかない」と強調しましたが、選挙戦を通じて示されるべきは「次世代へ私たちがどのような社会を手渡すのか、そのためにどのような選択をするのか」であったはずで、「少子超高齢社会」に向かう日本において、これまでのような経済成長が見込めない現実と、将来世代に負担を先送りする政治を直視しなければ、来るべき共生社会は望むべくもないからです。

東京・生活者ネットワークは、政治を政党や議員だけに任せておくのではなく、生活の現場にいる普通の市民が参画し、熟議し、解決策を導き出す新たな「参加型政治」が必要だと考え活動してきました。脱原発、エネルギー・食料の地産地消、多世代にわたって暮らしを支えるセーフティネットの充実など、一人ひとりの人権が尊重される、持続可能な豊かさを実感できる政治を実現するために、地域から声を発し続けていきます。

生活者ネットワークは都内34の自治体にあり、それぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区を超えた東京問題・国政問題には全体で取り組んでいます。東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。